

充実の3日間

## 越後 黒岩尾根～割引岳

以前黒岩峰に登った時、割引岳へ続く稜線が気になっていた。いつか登ってやろうと思っていたが、今回、休みとメンバーがそろい、アタックする機会が訪れた。

### 1月9日

「藪だよ～」という外部からの悪魔の囁きにもめげず、朝一番のバスで清水に降り立つ。やはり、雪が少ない。計画当初は車道から直接尾根に取り付くつもりだったが、なるべく高度を上げるべく、



割引沢登山道から沢を渡って尾根に取り付くことにした。高度が上がったはいいものの、沢の渡渉点を探してうろうろ、そこをサト里香さんがうまく浅瀬を探し出し、無事渡渉できた。そのあとは軽く藪、雪も微妙な積もり方で、スノーシューで四苦八苦。この時点で、メンバーからは「たどり着くのか…?」との懸念も出るが、「大丈夫だよ」と軽くいなすが確信はなかった。

幸い、尾根に乗ると、雪もそこそこ積もっており、藪もうるさくなく、普通にラッセルとなった。天気も



### 1月10日

夜中ごうごう鳴っていた風が、朝には静まっていた。天候が悪化しないうちにと、明るくなると同時に出発する。まだ慣れない竹澤さんは重荷とスノーシューと格闘、ラッセルはサト里香さんと私とで交互に行う。その後もしばらく樹林帯が続いたので、もうちょっと高度を上げておけばよかったと少し後悔。私は地図を読み違え、これから斜度が急になるだろうと早々とアイゼンに変えたが、その後もずっと深雪ラッセルが続き、しかも思っていたよりずっと手前だったと気づいて、再びスノーシューに変える。ようやく割引岳の山容が見えてくるが、山頂までも長く、ちょうどたど

### 【日程】

2016年1月9日(土)～  
11日(月)

### 【メンバー】

栗原し、佐藤(里)、竹澤

【地形図】巻機山

【記】栗原

り着いた頃にガスに追いつかれた。風がないのが幸いだが、ガスでほとんど何も見えない。ほんの



少しの晴れ間に、稜線をたどるが、すぐにまたガスの中となる。真っ白で、足元の斜度すら見えない。スノーシューで恐る恐る進むが、傾斜や尾根の広さすら分からず、足が流されるのが怖いので、途中でアイゼンに切り替えた。途端に、腿ラッセルとなり、遅々として進まなくなる。しばらくアイゼンで格闘するが、一瞬ガスが切れた時に、尾根が広く、傾斜もないことを確認、再びスノーシューに履き替えて進む。サトリかさんのGPSで道を外していないこと

を確認しつつ、コンパスで方向を切って進む。近いと思っていた避難小屋がはるか遠く、距離感覚もおぼつかなくなる頃、ようやく避難小屋到着した。2階の出入り口は埋まっておらず、中に入れば天国、緊張感も解きほぐれ、ゆったりとした時間を過ごした。夕方からは風雪が強まり、樹氷の氷が小屋の壁をひっきりなしに叩いていた。

## 1月11日

小雪がちらつく中、出発する。ガスで視界が効かないため、今日もGPSが大活躍。しばらくは道を外さないよう注意しながら進むが、樹林帯に入ってしまうとあとはラッセル日和、古い地形図の登山道にまた惑わされながらも、ポクポクと清水まで下った。

### <メンバーの感想>

微妙な渡渉から始まり藪漕ぎ、腰ラッセル、ホワイトアウト、トイレでお尻が出せない暴風に遭いながらも美しい白銀の世界で3日間過ごせました。久々に手応え十分の山行、メンバーに恵まれ感謝です。またラッセルしましょう！（佐藤）

スノーシューで渡渉、凍って足が入らない靴、凍って調節のきかないザックのストラップ、凍って着けられないコンタクトレンズ、凍って閉められないスパッツのファスナー、テント内を出した途端みるみる湿っていくダウンジャケット、湿雪で全身びしょびしょ&そのままシュラフに入る夜……。沢山の初めてを経験し、身を以て学んだ3日間でした。ラッセルは全くの戦力外で情けない限り。いつか恩返しができるように精進したいと思います。（竹澤）

【コースタイム】 1/9 清水バス停 (7:25)-黒岩峰(14:40)-1456m(15:15) c1  
1/10 c1(6:45)-1750m (10:00)-割引岳(11:00)-避難小屋(13:50) c2  
1/11 c2(6:40)-ニセマキ(7:05)-1128m(10:25)-清水バス停(12:05)